

J A 御中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公 印 省 略)

営農情報 5

少雨に伴う水稻の技術対策

本年は、梅雨入りが遅く、4月上旬から7月上旬までの降水量（太宰府アメダスデータ）は、平年の51%と少なく、県内主要ダムの貯水量（7月9日現在）も37.7%と非常に低くなっています。

今後、早期水稻は出穂期、普通期の「夢つくし」も幼穂形成期と水が必要な時期となりますので、現地指導をお願いいたしますと共に、用水不足の地域においては、節水栽培にも心掛けてください。

1 漏水防止、水源確保対策

- (1) 農業用水の供給に影響が生じる可能性がある場合は、事前に利水調整に関して地域内で十分協議し、農業用水の有効利用に努める。
- (2) 水路のU字溝の継ぎ目より水が漏れている場合は、コンクリートやモルタルで漏水を防ぐ。
- (3) 畦畔のモグラ穴等による漏水がある場合は、穴をふさぎ漏水を防止する。
- (4) 排水路の水を再利用するため、ポンプの活用も検討する。

2 早期水稻

- (1) 4月中下旬移植では、最も水を必要とする穂ばらみ期から出穂期に入っているため、計画的配水を行う。ほ場状態は、最低でも黒湿りの状態を保つ。
- (2) 用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板を高さ5cm程度に設定し、雨水をほ場内にとどめる。

3 普通期水稻

- (1) 水稻が最も水を必要とするのは、穂ばらみ期～出穂開花期のため、この時期を中心に計画的配水を行う。
- (2) 移植直後～分けつ開始までは、湛水～潤土状態の管理とし、分けつ開始後は間断かん水を基本とする水管理を行う。
- (3) 初期除草剤が散布出来なかったほ場や用水不足により初期除草剤の効果が劣っている場合は、中後期除草剤を登録の範囲内で散布する。
- (4) 用水確保が難しいほ場では、水尻のせき板を高さ5cm程度に設定し、雨水をほ場内にとどめる。
- (5) 用水不足の地域においては、中干後の漏水を防止するため、中干しを弱めに行

- うか実施しない。
 (6)穂肥は、土壌水分がある状態ならば施用する。

表 1 節水を目的とした計画配水の例

生育時期	水の必要度	用水の少ない場合	土壌水分の限界の目安
田植え直後 (活着期)	最必要	数回かん水	黒湿り
分けつ期	必要	湿潤 (表面を湿らせておく程度)	黒乾
無効分けつ期	極少	断水	白乾
幼穂形成期 (-25~12)	最必要	数回かん水	黒湿り
穂ばらみ期 (-11~-1)	最必要	週に数回かん水	黒湿り
出穂・開花期 (0~7日)	最必要	週に数回かん水	黒湿り
登熟初中期 (8~30日)	必要	湿潤 (表面を湿らせておく程度)	黒乾
登熟後期 (31日~)	少	断水	黒乾
落水時期 (収穫7日前)	極少	断水	白乾

※1 土壌水分の限界は、水稻の生育、収量に大きな影響を与えないと考えられる最低の土壌水分状態である。この限界を超えた場合は、次のような水稻への影響が懸念される。

- ・穂ばらみ期～出穂・開花期 … 1穂粒数の減少や不稔による稔実粒数の減少（シイナの増加）により収量低下。
- ・登熟初中期以降 … 粒の充実不足により収量、品質が低下。

※2 「黒湿り」とは足跡に水が残る程度で、「黒乾」とは足跡が残らない田面が黒く乾いた状態。「白乾」とは田面が白く乾いた状態。

以上